

## 平成25年度 事業報告書

平成25年度においては、JR各社のご助成と鉄道弘済会のご援助により計画した事業を予定どおり実施することができました。

各事業の概況は次のとおりです。

### 1. 低利融資事業（第一種社会福祉事業）

身障者の生活を維持向上させるため、経済的に援助することを目的として、昭和27年に開始されました。

当時、国鉄から200万円、鉄道弘済会から400万円のご寄付をいただき資金が設けられました。その後、鉄道弘済会からの特別助成等により、現在資金は5,904万円となっております。当年度の貸付件数は、1件であり、これは前年度と比較して1件の増で金額は60万円の増加となっております。

### 2. 更生相談事業（第二種社会福祉事業）

当年度中に中央及び地方協会が相談に応じた実績は次の通りであり、相談件数の合計は785件でした。前年と比較して99件の減少となっております。

これは、主に九州協会の共済他相談（訪問）が減少した結果です。

相談方法内容別実績表

(25.4.1～26.3.31)

方法・内容	融資	生活	職業	年金	医療	補装具	就学	共済他	計
面接	3	1	0	6	4	48	0	11	73
通信	10	34	3	92	10	62	0	412	623
訪問	0	22	0	14	2	5	0	46	89
計A	13	57	3	112	16	115	0	469	785
前年度B	16	23	3	92	21	167	0	562	884
増減A－B	△ 3	34	0	20	△ 5	△ 52	0	△ 93	△ 99

### 3. 顕彰事業（公益を目的とした事業）

(1) 身障者下山賞表彰は、昭和24年故下山国鉄総裁のご遺族から贈られた寄付金をもとに、国鉄の業務上の事故により身体に障害を負った者の自立の努力による功績を顕彰するために設けられたものであります。

当年度は、第64回を迎え、10月25日弘済会館（東京都千代田区・麴町）において6名の方々の表彰を行いました。

なお、受賞者には協会から賞状と記念品が贈られたほか、JR各社から記念品が、また鉄道弘済会から記念品と賞金が贈られました。

篠原正男氏（72歳）	右下腿切断	業災・4級（東日本鉄道身障者協会）
宮澤義弘氏（72歳）	左足指第1-4挫滅創、右足1/2下腿切断	業災・4級（東日本信越鉄道身障者協会）
國分清氏（87歳）	右下腿貫通銃創、両下肢機能の著しい障害	戦傷・2級（東日本東北鉄道身障者協会）
齋藤俊雄氏（85歳）	右下腿切断	公傷・4級（東日本東北鉄道身障者協会）
石越忠夫氏（76歳）	左下腿切断	業災・4級（東海鉄道身障者協会）
大串吉次郎氏（82歳）	左下腿切断	業災・4級（九州鉄道身障者協会）

(2) 鉄道90年記念奨励賞の表彰は、昭和37年鉄道開業90周年の記念事業として設けられた顕彰行事で、当時国鉄から300万円、鉄道弘済会から200万円のご寄付を頂き、これを基金として創設されました。

現在基金は1、133万円となっております。

当年度は、第51回を迎え次の方々が受賞されました。

なお、第4号の懸賞作品の課題は【障害者が地域でゆたかに過ごすには】で、応募総数は54篇でした。入賞と佳作の作品は、当協会発行の障害者福祉専門誌「リハビリテーション」平成25年11月号（No. 558）に掲載いたしました。

「第4号」 論文または作品＝身障者の福祉を増進する、論文または作品を募集して公表し、身障者のリハビリテーション対策の進歩と充実を図る。

第1位	佐藤晴香様	39歳	躁鬱病	事業所勤務
第2位	古川るり子様	60歳		無職
第3位	上野俊行様	39歳	頸髄損傷による四肢麻痺	会社員
第3位	鶴田名緒子様	39歳		主婦
審査員奨励賞	角坂柚様	14歳		中学二年生

第4号の第1位及び審査員奨励賞者は辻理事長から、第2位・第3位の入賞者は郵送にて、賞状のほか第1位には賞金15万円、審査員奨励賞には記念品、第2位には賞金7万円、第3位には賞金5万円を各々贈呈しました。

(3) 特別功労賞は、今年度の該当者はございませんでした。

(4) 功労賞表彰は、当協会の運営に特に功労のあった人に対する表彰で、平成2年に創設されました。当年度は第22回目で地方協会から推薦された候補者の中から選考して8名の方々を表彰し、地方協会の会長を通して賞状と記念品を贈呈しました。

#### 4. 出版事業

当協会の発行する障害者福祉専門誌「リハビリテーション」は昭和28年に創刊して当年度末で561号を数えます。

発行回数は年10回で1号あたり3,500部発行しております。  
当年度発行した各号の特集記事は、次のとおりです。

平成25年	4月号 (No552)	じりつー生活の中で考えたこと①
平成25年	5月号 (No553)	じりつー生活の中で考えたこと②
平成25年	6月号 (No554)	障害者たちー戦後の運動・思想①
平成25年	7月号 (No555)	障害者たちー戦後の運動・思想②
平成25年	8・9月号 (No556)	復興ー東日本大震災から2年ー
平成25年	10月号 (No557)	深めよう補助犬への理解
平成25年	11月号 (No558)	懸賞作品特集【障害者が地域でゆたかに過ごすには】
平成25年	12月号 (No559)	わが子とのふれあいー障害者家庭の子育ての記録①
平成26年	1月号 (No560)	わが子とのふれあいー障害者家庭の子育ての記録②
平成26年	2・3月号 (No561)	会報・機関紙(誌)・広報紙(誌)

ー 組織黎明期の情報伝達 ー ①

## 5. 義肢製作費補助事業

鉄道従事者に肢切断による公務障害者が多いことから、鉄道弘済会では義肢を製作する場合に障害者本人が負担する経費を補助する制度を設けていましたが、当協会の会員の利用が多いことなどから昭和62年に制度の移管を受けたものです。

当年度中の取扱件数は54件で、給与した金額は682,340千円となっております。

これは前年度と比較して件数は14件の減少、金額は210千円の減少となっております。

## 6. 共済事業

昭和33年に、多くの会員の要望により互助共済制度が設けられました。制度の創設にあたっては鉄道弘済会から500万円の特別助成をいただき、協会が400万円を拠出し会員が加入者負担金等408万円を出し合計1,308万円を基金としたもので、この果実で弔慰金や各種の見舞金の給付を行うこととしています。

当年度中の給付は件数で113件、金額で1,920千円であり、前年度と比較して件数は4件の増加、金額は220千円の増加となっております。

これは前年度と比較して主に弔慰金が増加したためです。

なお、当年度末の基金は、4,708万円となっております。

## 7. JR会社増収協力活動

かねてより当協会会員に対し、JR会社への増収協力を呼びかけておりますが、地方協会でも工夫を重ね旅行会を実施する等努力をしております。

当年度中の実績は次のとおりです。

(単位：千円)

期別	件数	延人員	金額
上期分	723	1,760	22,568
下期分	699	1,520	19,752
25年度計(A)	1,422	3,280	42,320
24年度計(B)	1,416	3,919	45,254
増減(A)－(B)	6	△ 639	△ 2,934

## 資金収支計算書

(自平成25年4月1日至平成26年3月31日)

勘定科目		予算	決算	増減
事業活動	収 事業活動収入計	50,978	49,794	1,184
	支 事業活動支出計	48,282	47,690	592
	事業活動資金収支差額	2,696	2,104	592
施設整備等	収 施設整備等収入計	0	0	0
	支 施設整備等支出計	0	0	0
	施設整備等資金収支差額	0	0	0
その他	収 その他の活動収入計	6,988	5,784	1,203
	支 その他の活動支出計	6,988	5,784	1,203
	その他の活動資金収支差額	0	0	0
予備費支出		388		388
当期資金収支差額合計		2,308	2,104	204
前期末支払資金残高		51,560	156,228	△ 104,668
当期末支払資金残高		53,868	158,333	△ 104,465

## 事業活動計算書

(自平成25年4月1日至平成26年3月31日)

勘定科目			本年度決算	前年度決算	増減
サービス活動	収益	サービス活動収益計	48,192	50,429	△ 2,236
	費用	サービス活動費用計	47,807	50,640	△ 2,833
	サービス活動増減差額		384	△ 211	596
サービス活動外	収益	サービス活動外収益	1,599	2,954	△ 1,354
	費用	サービス活動外費用計	19	0	19
	サービス活動外増減差額		1,580	2,954	△ 1,373
経常増減差額			1,965	2,742	△ 777
特別増減	収益	特別収益計	5,784	0	5,784
	費用	特別費用計	5,784	20	5,764
	特別増減差額		0	△ 20	20
当期活動増減差額			1,965	2,722	△ 757
繰越活動	前期繰越活動増減差額		16,932	13,503	3,429
	当期末繰越活動増減差額		18,898	16,225	2,673
	基本金取崩額		944	707	237
	次期繰越活動増減差額		19,842	16,932	2,910

## 貸借対照表

(平成26年3月31日)

勘定科目	25年度末
流動資産	177,334
固定資産	10,995
資産の部合計	188,329
流動負債	18,203
負債の部合計	18,203
基本金	150,284
次期繰越活動増減差額	19,842
(うち当期活動増減差額)	6,338
差引純資産	170,126

注1) 平成25年度から新会計基準に移行。

注2) 共済会計(特別会計)と合算。

注3) 千円未満切捨て

## 財 産 目 録 (総括)

(平成26年3月31日)

資産・負債の内容	合 計
<b>I 資産の部</b>	
1 流動資産	177,334
現金預金	91,940
現金	774
普通預金	91,165
振替預金	
有価証券	80,762
未収金	1,193
雑誌広告料・購読料・貸付利子	
前払金	
貸付金	3,316
仮払金	380
経理区分勘定	443
徴収不能引当金	△ 701
流動資産合計	177,334
1 固定資産	10,995
(1) 基本財産	10,461
基本財産特定預金	10,461
(2) その他の固定資産	534
ソフトウェア	534
固定資産合計	10,995
資産の部合計	188,329
<b>II 負債の部</b>	
1 流動負債	18,203
未払費用	1,220
預り金	199
雑誌広告料・購読料・貸付利子	
前受金	16,340
経理区分勘定	443
流動負債	18,203
2 固定負債	
固定負債合計	
負債の部合計	18,203
差引純資産	170,126

注1) 平成25年度から新会計基準に移行し、共済会計(特別会計)と合算している。

注2) 千円未満切捨て

# 監事監査報告書

平成26年6月16日

社会福祉法人 鉄道身障者福祉協会  
理事長 辻 等 殿

## 1. 理事の業務の執行状況について

次の理事会における理事の業務の執行状況について把握した。

- (1) 平成25年度第1回理事会 (平成25年4月1日)
- (2) 平成25年度第2回理事会 (平成25年5月24日)
- (3) 平成25年度第3回理事会 (平成25年6月20日)
- (4) 平成25年度第4回理事会 (平成25年9月11日)
- (5) 平成25年度第5回理事会 (平成25年10月24日)
- (6) 平成25年度第6回理事会 (平成26年2月14日)
- (7) 平成25年度第7回理事会 (平成26年3月13日)


## 2. 法人の財産について

- (1) 財産目録 (平成26年3月31日現在)
- (2) 貸借対照表 (平成26年3月31日現在)
- (3) 資金収支計算書 (自平成25年4月1日至平成26年3月31日)
- (4) 事業活動計算書 (自平成25年4月1日至平成26年3月31日)

以上、平成25年度の社会福祉法人鉄道身障者福祉協会の事業報告書、財産目録、貸借対照表、資金収支計算書及び事業活動計算書については、関連する法令及び通知に従った監査の結果、適正に執行されていると認めます。

社会福祉法人 鉄道身障者福祉協会

監事

杉本貞夫 

監事

奥田明光 